

平和な未来を せたがや から

せたがや未来の平和館10周年記念誌

 世田谷区

平和な未来を せたがや から

せたがや未来の平和館 10周年記念誌

平和都市宣言

われわれの住む地球上から核兵器をなくし、戦争のない平和な社会を実現していくことは、すべての人びとの願いである。

しかし、いまなお世界の各地では、武力による紛争が絶えず、一方核軍備の拡張競争は一段と激化し、世界の平和に深刻な脅威をもたらしている。

われわれは、人類永遠の平和を樹立するために、核兵器がこの地球上からなくなる日を心から願うとともに、我が国が今後とも核兵器をつくらず、持たず、持ち込ませずの「非核三原則」を堅持していくことを強く望むものである。

世田谷区は平和を愛する区民の願いにこたえ、核兵器の廃絶と世界に平和の輪を広げていくことを誓い、ここに「平和都市」であることを宣言する。

昭和60年8月15日
世 田 谷 区



平和な未来を
世田谷から

世田谷区立
平和資料館

発刊にあたって

世田谷区長
保 坂 展 人



戦後80年の節目の年がやってきました。また、世田谷区平和都市宣言40年にあたる本年は、せたがや未来の平和館（世田谷区立平和資料館）開館10周年の年であり、これを記念して本書を企画いたしました。

開館以来、多くの区民の皆様の平和を願う強い思いに支えられながら、当館では、「過去を知り、感じ、考える」「現在を理解する」「未来を展望する」の3つの視点のもと、平和事業に取り組んできました。この10年間で、常設展示室のリニューアルや企画展の開催、巡回展の開始など展示の充実を図るほか、世田谷区内の戦跡を巡るまち歩き、平和のランタンを作るワークショップなど、館外への活動や区民参加のイベントも多数手掛けてまいりました。

本記念誌では、館所蔵の品々や現在までの活動をご紹介します。これまで、当館ならびに前身の平和資料室に、多くの寄贈品・寄贈本をいただいた皆様、また、活動にご協力をいただきました皆様に、心からお礼を申し上げます。

今後も、区は当館を拠点として、地域の歴史を踏まえつつ、戦争の悲惨さの継承とともに恒久平和の実現に向けた意識の醸成に向けて使命を果たしてまいります。

ぜひ、せたがや未来の平和館にお越しください。区民の皆様とともに平和を希求していくことを切に願っています。

令和7(2025)年7月

世田谷区の戦争と平和関連年表

西暦	元号	ことがら
1891	明治 24	騎兵第一大隊営(明治29年に連隊)、霞ヶ関より池尻に移設
1892	25	近衛輜重兵大隊第一中隊営(明治26年に大隊)、池尻・上目黒に設置
1897	30	駒沢練兵場、下馬・三宿・池尻・上目黒に設置
1898	31	野砲兵第一連隊営 下馬に設置、近衛野砲兵連隊営 太子堂に設置
1899	32	野戦重砲兵第四旅団司令部、三宿に設置 野戦重砲兵第八連隊、下馬に設置
1900	33	陸軍第二衛戍病院、太子堂に開設
1909	42	陸軍獣医学校、下代田に移転(現:富士中、駒場学園高校)
1918	大正 7	陸軍自動車学校、世田谷に設置
1929	昭和 4	陸軍衛生材料廠、用賀に設置
1932	7	2町2村合併し「世田谷区」となる(10) 第二陸軍病院大蔵分院開設(現:国立成育医療センター)
1936	11	砧村、千歳村、世田谷区に編入
1941	16	国民学校令施行(4) 太平洋戦争開戦(12)
1944	19	世田谷区学童集団疎開開始(8) 世田谷初空襲(11)
1945	20	世田谷区内で建物疎開開始(3) 山の手空襲、区役所が全焼(5) 太平洋戦争終戦(8)
		学童集団疎開先より引き揚げ開始(10)、進駐軍旧陸軍衛生材料廠接收(10) 旧三宿にある軍施設の一部「世田谷郷」の入居者により戦災復興町会が発足(10)
1946	21	旧駒沢練兵場の緑地計画(戦災復興計画)(4) 世田谷区民の「米ヨコセ」デモ(5)
1950	25	旧駒沢練兵場の公園緑地計画決定(3)
1959	34	旧駒沢練兵場が都立世田谷公園として開園(8)
1965	40	世田谷公園が都から区に移管(4)
1982	57	世田谷区制50周年
1985	60	世田谷区平和都市宣言(8)
1986	61	「平和の祈り」像を世田谷公園に設置(12)
1989	平成 元	国際平和交流基金条例制定(4)
1990	2	「平和の灯」を世田谷公園に設置(8)
1992	4	戦争体験記録集「今、語り継ぐこと」発刊(3) 「世田谷と子どもたち～世田谷区学童疎開～」発刊(12)
1995	7	「被爆2世の木」を世田谷公園に植樹
1995	7	世田谷区立平和資料室開室(区立玉川小学校内)(8)
2010	22	平和市長会議加盟(25年8月平和首長会議に名称変更)(4)
2015	27	世田谷区立平和資料館開館(世田谷公園内)(8)
2025	令和 7	戦後80年、世田谷区 平和都市宣言40年、せたがや未来の平和館開館10周年

※カッコ内の数字は月

出典：東京都世田谷区『世田谷 近・現代史』(1976)
世田谷区都市整備部都市計画課『世田谷区まちなみ形成史』(1992)
せたがや百年史編纂委員会『せたがや百年史 [上巻]・[下巻]』(1992)

目次

平和都市宣言	i
平和な未来を せたがや から	iii
発刊にあたって	iv
世田谷区の戦争と平和関連年表	v
 第一部 せたがや未来の平和館へようこそ	 1
せたがや未来の平和館は、世田谷公園にあります。	3
せたがや未来の平和館で、平和の花が咲いています。	5
展示品が語る「戦争」	7
銃後の暮らし	9
二人の兵士が残した日記と日誌	11
学童集団疎開	13
迫る空襲	15
原爆	17
戦争が終わって…	18
戦後から現代まで	19
平和と戦争	21
特別展・企画展の10年	23
来館者アンケート	25
せたがや未来の平和館 成長のあゆみ	29
 第二部 ともにつくる平和な未来	 31
体験者から語り部へ	33
平和へのアクション	37
楽しさ発見！	37
平和を身近に！	39
手をつなごう！	41
バックヤードで宝探し まだまだある！ 展示していない収蔵品	43
バックヤードで宝探し～舞台裏～	45
思い出のある企画とその舞台裏	47
まち歩きツアー：語り部に会いに行こう	47
クイズラリー	49
世田谷公園ウォークラリーと池尻・下馬地域ウォークラリー	49
[企画展]「ジェンダーと平和」	50
トイレの掲示ポスター	50
川崎市と世田谷区 平和館同士の相互連携について	51
せたがや未来の平和館がめざすもの	53
平和首長会議	55
せたがや未来の平和館ご利用案内	55

* 物品の名称については、寄贈者の意向により年号もしくは西暦のみで表記しております。

第一部

せたがや未来の平和館へようこそ



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS





この美しい空の下は、
真っ赤に燃えていた。
ここから発った人と馬は
二度と帰らなかった。

せたがや未来の平和館がある世田谷公園はかつて駒沢練兵場だった。兵士と軍馬は戦場に行って命を落とし、住民は空襲で逃げまどっていた。

私たちの暮らしはニュースで見る光景とつながっているかもしれない。

せたがや未来の平和館 (世田谷区立平和資料館)

世田谷区池尻1-5-27 〳世田谷公園の中にあります〵

2025年は、終戦から80年
世田谷区の平和都市宣言から40年
せたがや未来の平和館 開館10周年

せたがや未来の平和館は、 世田谷公園にあります。

世田谷区は東京23区の西南端に位置します。東は目黒区・渋谷区、北は杉並区・三鷹市、西は狛江市・調布市、南は大田区とそれぞれ接し、さらに多摩川をはさんで神奈川県川崎市と向かい合っています。面積は58.05㎢で、大田区(61.86㎢)とほぼ並び、23区で最大規模です(2021年1月現在)。人口は約926,000人(2025年4月現在)で23区で最も人口が多い区です。

せたがや未来の平和館は、その世田谷区の東部に位置しています。40回目の終戦の日にあたる昭和60(1985)年8月15日に、平和都市宣言を行いました。宣言から30周年には、玉川小学校の平和資料室を緑豊かで平和のモニュメントのある世田谷公園内に移し、せたがや未来の平和館として開設しました。



世田谷公園は、
かつて陸軍の駒沢練兵場
でした。



「昔の駒沢練兵場」めぐろ歴史資料館所蔵



①せたがや未来の平和館



②世田谷公園噴水広場



世田谷公園全図

平和のモニュメント



③平和の灯

世田谷区が「平和都市宣言」を行ってから5周年を記念し、平成2(1990)年に「区民の火」と広島市の「平和の灯」、長崎市の「誓いの火」を合わせて点火したものです。製作者は区内在住の彫刻家 向井良吉氏です。



柿の木

④被爆2世の木

平成4(1992)年に児童作家の大川悦生氏より寄贈されたもので、平成7(1995)年に植樹しました。
アオギリは、昭和20(1945)年8月6日、広島に原爆が投下されたときに被爆した木の2世です。

柿は、昭和20(1945)年8月9日、長崎に原爆が投下されたときに被爆した木の2世です。



アオギリ



⑤平和の祈り像

平和都市宣言を記念し、国際平和年にあたる昭和61(1986)年12月に設置しました。区内在住の彫刻家佐藤助雄氏の制作のブロンズ製で、平和を願う区民からの寄付をもとに区が設置したものです。

せたがや未来の平和館で、 平和の花が咲いています。

区民に戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝え、恒久の平和を願う取り組みをしています。また、現在の状況を踏まえ、未来の平和を展望するため、平和に関する事業を展開しています。





常設展示室

過去を知り、感じ、考えるため、戦争に関する資料や実物を展示しています。展示品は主に区民の方から寄贈いただいたものです。また来館者の皆さまの意見・感想等を掲示しています。未来の平和を考えるため、過去を知り、現在を生きる人同士で意見を伝え合う、館の中心となっている部屋です。



ライブラリー

戦争体験者に語っていただいたDVDをはじめ、平和に関する多数の映像資料と寄贈された書籍を所蔵しています。また、新規で購入した本とおすすめ本のコーナーもあります。

ぜひ気軽にいらしてください。



多目的室

企画展示、映画の上映会などの開催や、様々な平和館の活動をする部屋です。展示やイベントがないときは、休憩スペースで絵本を読んだり、ボードゲームで遊んだりできる「へいわのひろば」として開放しています。

展示品が語る「戦争」

昭和12年
(1937)

日中戦争開始



9ページ

昭和13年
(1938)

配給制度開始
国家総動員法の成立

昭和14年
(1939)

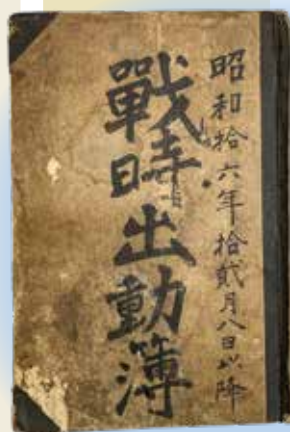
警防団成立

昭和15年
(1940)

尋常小学校から国民学校へ

昭和16年
(1941)

真珠湾攻撃



15ページ



9ページ



12ページ

昭和17年
(1942)

米軍による初本土空襲

昭和18年
(1943)

学徒出陣

昭和19年
(1944)

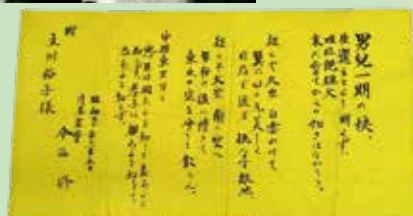
学童集団疎開

昭和20年
(1945)

東京大空襲
山の手空襲
沖縄戦
広島・長崎原爆投下
終戦



11 ページ



16ページ



13ページ



14ページ



17ページ



10ページ



16ページ



10ページ



18ページ

銃後の暮らし

深沢小学校の御真影・教育勅語運搬箱

御真影とは、天皇・皇后の写真です。当時学校に配られる御真影は大変丁寧な取り扱いが求められており、普段は防火性のある丈夫な「奉安殿」「奉安庫」に入っていました。空襲など非常時に、校長先生か当直の先生が重い運搬箱を背負って避難させる義務がありました。御真影を守るために命を失う先生もいました。命よりも御真影の方が大事にされた時代ともいえます。



空襲積木

昭和7(1932)年生まれの方が子どもの頃に使っていた積木です。戦車や飛行機、鉄砲を持つ兵士、爆弾が爆発したところなどが積木になっています。日中戦争以降、このように子どもたちが遊ぶおもちゃや絵本にまでも軍事色が浸透していきました。





鮭の革で作った子どもの靴

昭和16(1941)年生まれの方が、3歳の七五三で使ったものです。戦時中、軍隊で必要な牛革が一般に流通なくなると、様々な革を用いた代用品の製品化が試みられるようになりました。この靴は鮭の革を丁寧になめして加工されたものです。

戦時中の食事(レプリカ)

この展示を見て「おいしそう」という声もありますが、戦争体験がある方からは「もっと材料も乏しく、量も少なかった」とご指摘いただいています。平成21(2009)年に作られたこのレプリカは、区内の団体にご協力いただき、戦争当時を知る方々に料理を作ってもらい再現したものです。

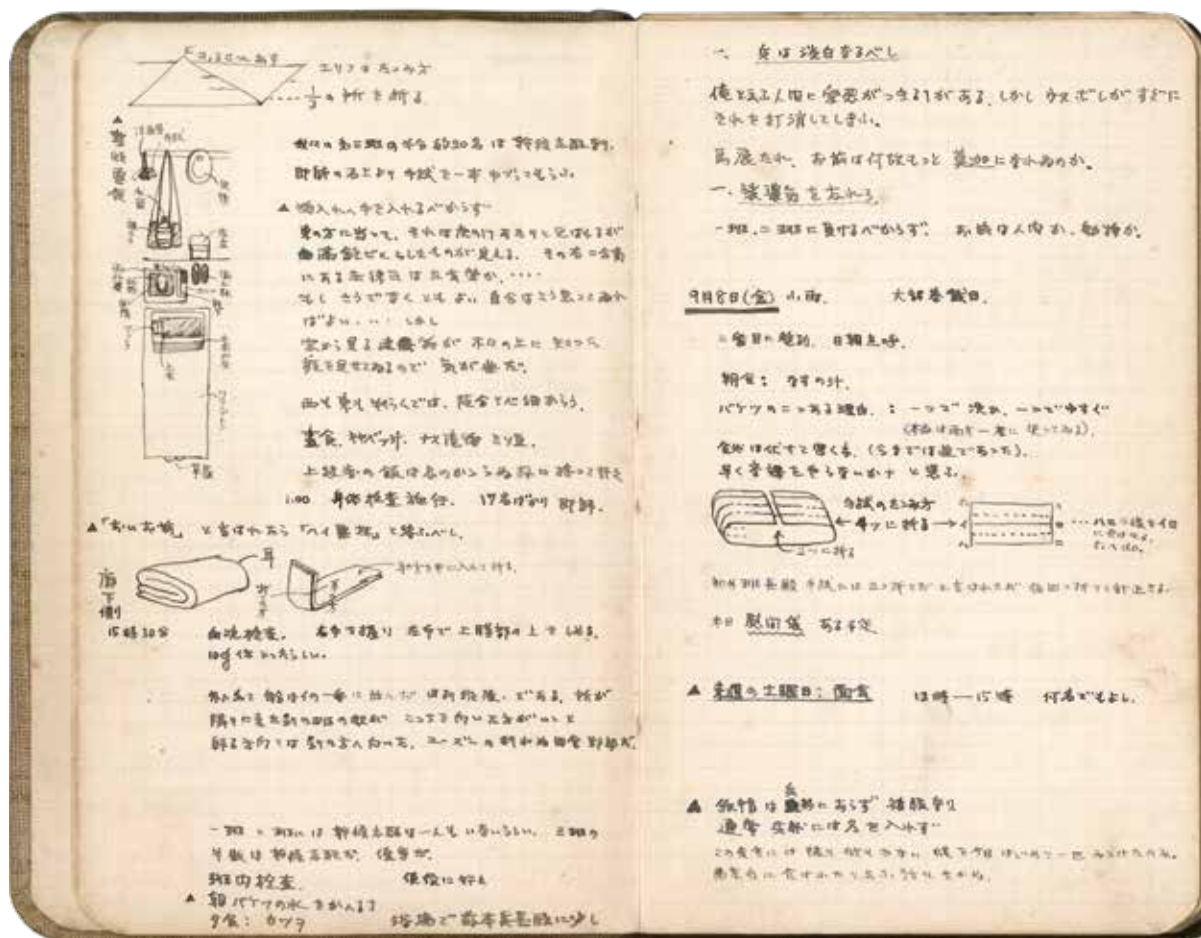
戦時中は、少ないながらも配給がありましたが、終戦直後はその配給も滞りがちでした。食糧確保が困難で、区内でも栄養失調で亡くなる人が出るほどでした。



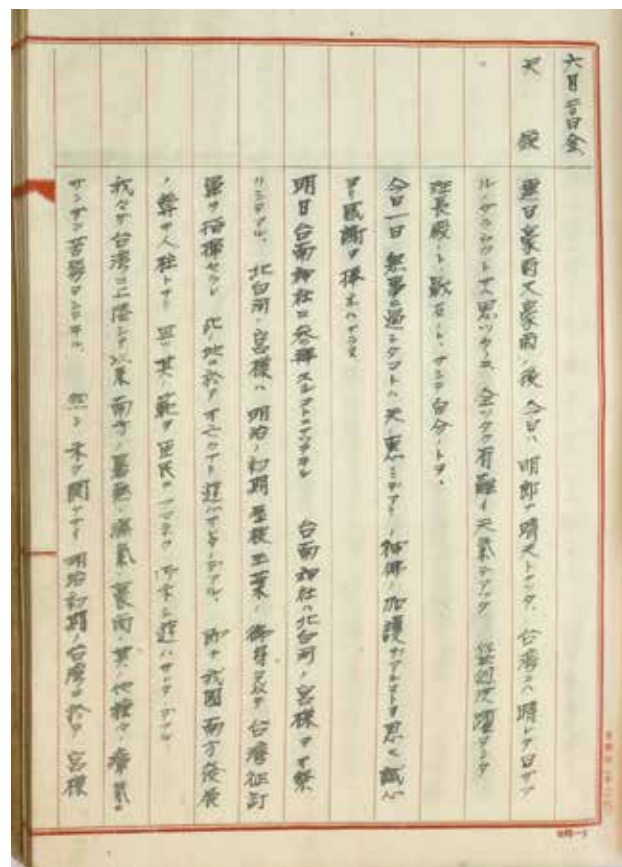
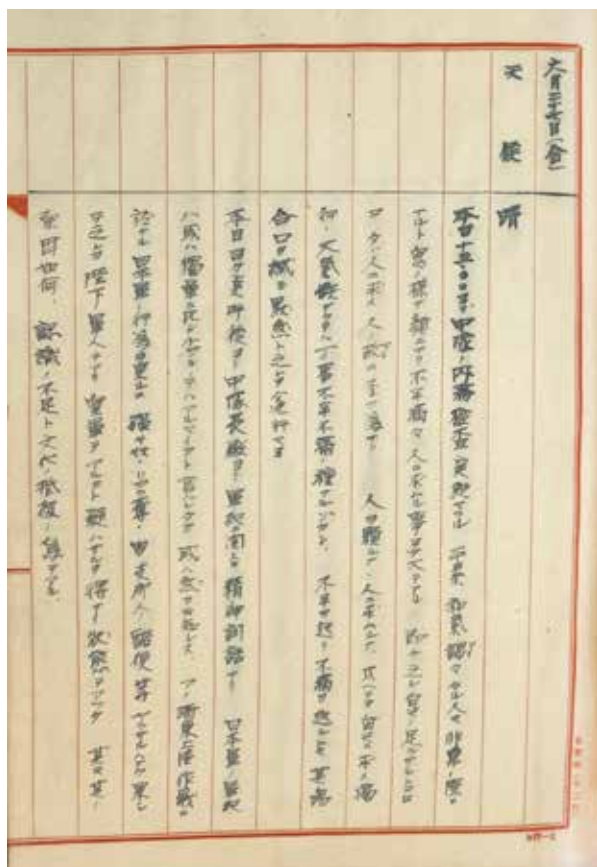
二人の兵士が残した日記と日誌

徴兵された兵士のロッカーの再現

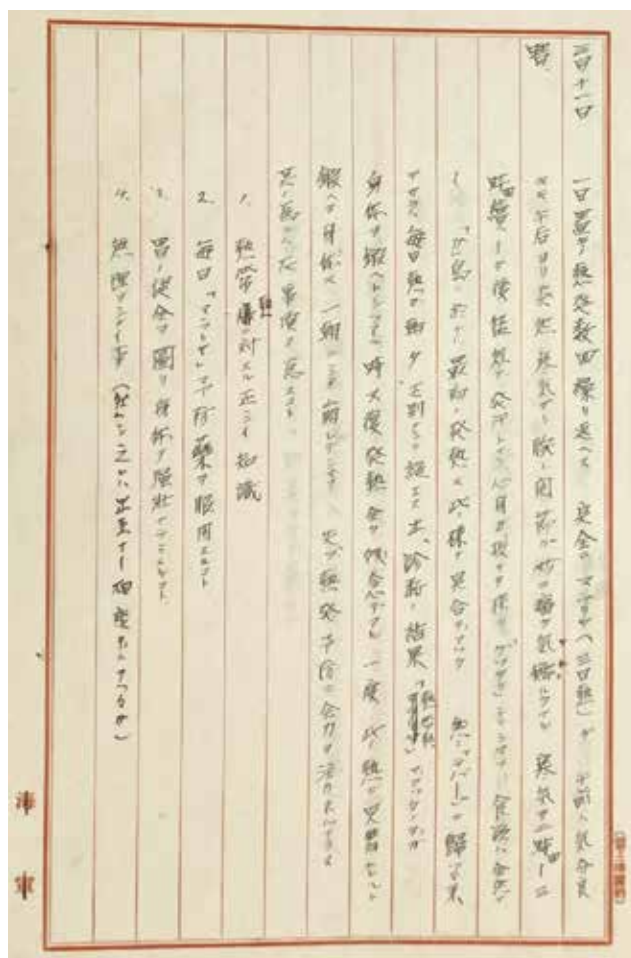
学徒出陣で徴兵された世田谷区民、栗林一路さんの軍隊日記に描かれた「整頓要領」のスケッチを元に再現したロッカーです。同日の日記内容では、その後に身体検査の話が続きました。きちんと整理整頓する必要がある狭いロッカーから、学業や一般市民としての生活から離れ、集団生活を始めたばかりの兵隊生活の様子がうかがえます。[栗林一路さんの日記の企画展を令和5(2023)年に開催しました。]



栗林一路 教練手簿 昭和19(1944)年9月5日のページ



台湾に駐屯していた
昭和16(1941)年6月～10月の日誌の一部。



陣中日誌(2冊)

兵士の家族から寄贈された2冊の陣中日誌。日誌の最初は日本と全く違う南国の天気や見たことのない果物など、新しい体験の話や、現地住民との交流、皇軍としての意気込みと時局に対する所感が垣間見える内容です。しかし、読んでいくと、周りに戦死者が出ていたり、自分自身も熱が出たりして、厳しく重い体験になっていきます。回想ではなく、一兵士が当時の視点から見る従軍生活としてとても貴重な日誌です。



昭和18(1943)年2月～6月の日記の一部。南洋で実際に戦闘に参加したりマラリアに罹ったりした経験が綴られています。

学童集団疎開

学童疎開児童と世田谷にいる家族や友人とのはがき

世田谷区では、昭和19(1944)年8月より34校約8300人の児童が新潟県と長野県に学童集団疎開をしました。

疎開児童と家族をつなぐものとして、手紙などのやりとりが頻繁に行われていました。家族や友人からの便りには、当時の東京の様子や暮らしがよくわかります。一方、疎開児童から家族への便りには先生の検閲があったという証言もあります。そのため、疎開生活の辛さや寂しさより、楽しい行事や日々励んでいることなどが多く書かれています。また、使われる絵葉書にも戦争が色濃く反映され、当時のことがわかる貴重な資料です。



弦巻国民学校の疎開児童から家族へ送ったはがき
(消印は昭和20年3月20日)

新潟鐵道局による疎開児童用の絵葉書

「統制のない面会や慰問品は児童たちに悪い影響を与へ、先生を困らせ、お国の大切な輸送を乱すもとですから控えませう」と印刷されている。



その後お変わり有りませんか。僕も無事で家につきました。こちらについていたのは、夜の九時ごろでした。そちらからである時、十一時四十分の汽車でした。熊谷の駅のまはりには、やけていました。しぶやのまはりもやけていました。三軒茶屋もやけていました。区やく所もやけていました。金銭が三つころがっています。松いん神社のうらもやけています。びっくりしました。

弦巻国民学校の疎開先の児童へ、先に世田谷に戻った友人からのはがき
(消印は昭和20年9月) 裏面の絵は「砲兵陣地」向井潤吉筆。

疎開児童が特攻兵からもらった布

長野県浅間温泉に疎開していた代沢国民学校の子どもたちと、特攻機の整備のため松本に来た特攻隊員たちと同宿になり、散歩をしたり勉強を見てもらったりと交流を深めました。お別れの際に疎開児童に渡されたこの布には、出撃前の気持ちが書かれています。この兵士は18歳でした。



特攻隊員と代沢国民学校の3年生



二子玉川国民学校と長野県中川村との交流

二子玉川国民学校は長野県上伊那郡片桐村（現：中川村）に疎開しました。戦争が終わって、昭和20（1945）年11月頃、帰京前の慰労会で、村の人たちが郷土芸能の人形浄瑠璃を披露してくれました。疎開児童も同じ会場で自作の人形劇をしています。

帰京後、お世話になったお礼にと、保護者らが人形浄瑠璃を送ったそうです。

令和5（2023）年には、二子玉川小学校でその人形浄瑠璃の里帰り公演が行われ、交流は現在でも続いています。



同じ慰労会場での横前人形の披露



同じ会場での疎開児童の人形劇

迫る空襲

代田一丁目 防空演習（昭和17年）

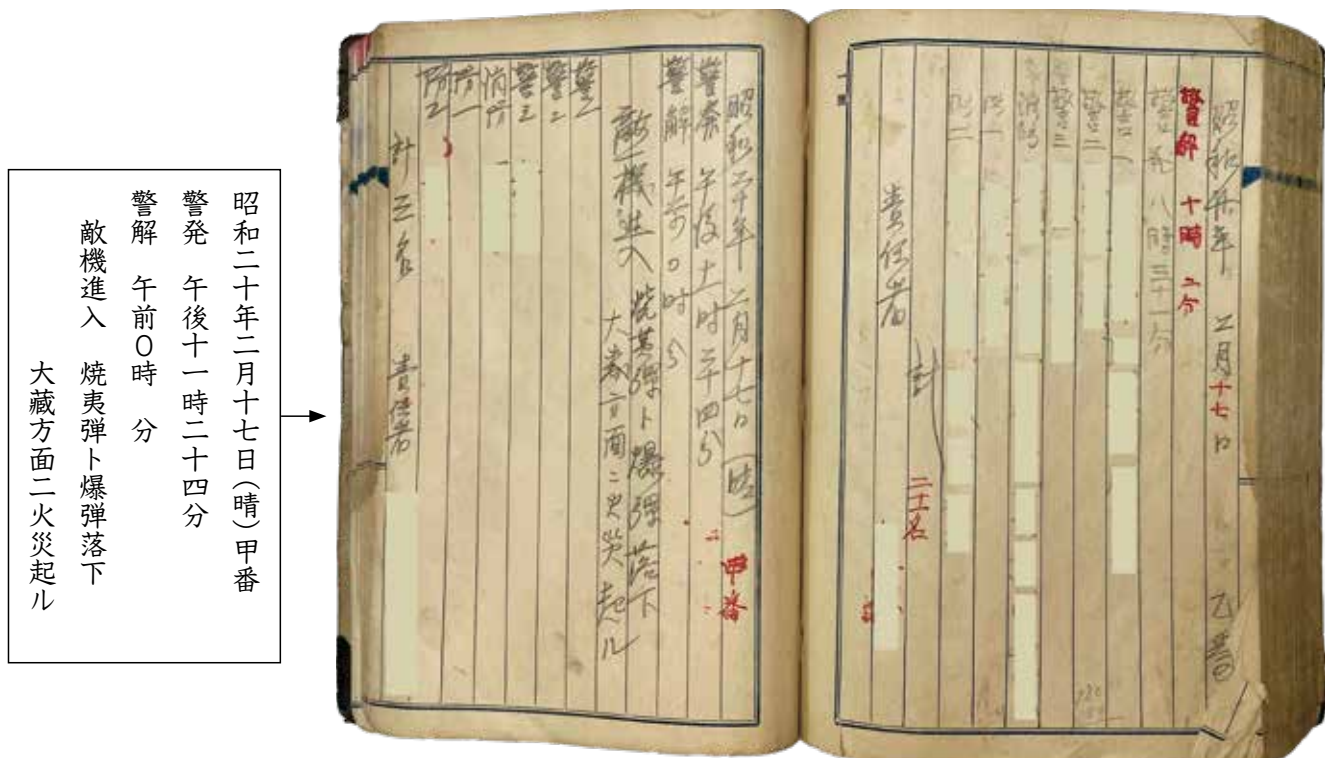
東京への初空襲は、昭和17（1942）年4月18日で、すでにこの頃には消火訓練や防空壕への避難など防空演習が行われていました。東京への本格的な空襲は昭和19（1944）年の秋以降で、この写真の頃はどこかまだ余裕の様子がうかがえます。



戦時出動簿（昭和十六年拾貳月八日以降）

世田谷警防団第二分団池尻支部

警防団とは昭和14（1939）年から設けられた防空のための団体です。出動簿では、日ごとに警戒・空襲警報が発令された時間や、その日の当番の名前が書かれています。最初はインク書きでしたが、途中から鉛筆書きになり、またページ数が足りなかったのか、昭和20年（1945）年3月中旬以降は、山折り部分を切り裏面の空白面が使われていました。地域の空襲の緊迫さの変化が読み取れる貴重な資料です。



昭和20年2月17日のページ



防空壕の中の絵 (昭和20年2月)

奥沢に住む姉から疎開先の妹に贈った手紙の裏に描かれたものです。「防空壕の中で書きました。」と末筆にあります。地面より低いため、水が溜まっていること、空気を通す穴があることなど詳細な様子が描かれています。



しょういだん 焼夷弾

「雨のように降ってきた」「火の海の中を逃げまどった」「家の敷地に60本も落ちていた」など、世田谷でも多くの証言があり、当館に寄贈された実物も複数あります。

写真の『焼夷弾にさわってみよう』のコーナーは館内の窓口前の特設展示です。平和館を知ってもらうきっかけとして区内の小学生が企画しました。

赤堤で撃墜されたB29の破片

B29は、空襲で使われたアメリカの爆撃機です。昭和20(1945)年5月の空襲でB29が赤堤に墜落したことを多くの人が目撃しました。そこで、見物感覚で米兵の死体を見に押し寄せる人がたくさんおり、またパラシュートで脱出した米兵を見て「この子にも母親がいる」と思い、「可哀そう」とつぶやいたところ「非国民」と叱られたという証言も残されています。(『東京大空襲・戦災誌第二巻』)

B29という敵の「武器」から、敵の「顔」が見えた瞬間、当時の人々はどう感じたでしょうか。



被爆したワンピース

昭和20(1945)年8月6日午前
8時15分広島市の市電己斐(こい)
駅で、原子爆弾の被害にあった女性
が着ていたワンピースの一部です。



区のおしらせ 平成28(2016)年8月15日号より

私は、終戦の年に広島で被爆しました。26歳でした。市内電車の己斐駅で電車を待っているときに、原爆が落とされたのです。ピカッときて爆風で日傘が飛んで、起き上がるともう洋服がボロボロでした。腕や顔にやけどを負いましたが、病院ではたいした治療もしてもらえませんでした。病院の近くには死体がいっぱい転がっていました。私は被爆後10年くらい、白血球が少ないと診断されて体調のすぐれない状態が続きました。

あの日のボロボロになってしまったワンピースは捨てられず、ずいぶん前に世田谷区に寄贈しました。ほんとうに戦争は悲惨なものです。

戦争が終わって…

墨塗教科書

終戦後、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の指示により、当時学校で使われていた教科書の軍国主義的な内容や民主主義に反する部分が墨で塗りつぶされた教科書です。先生の指導で児童・生徒が墨を塗ったそうです。



墨塗部分にもともとあった歌詞



昭和十九年二月三日 高等女学校・実業学校藝能科用
音楽1 中等学校女子用

椰子の木かげ

一 空は果てなき 紺のいろ、日ざしは燃えて 影ちさく、
ましろき花に 風揺れて、椰子の木かげの 家々に、
日の丸の旗 ひらめけり。

二 くづれ乱る々 雲の峰、密林揺りて 風はやく、
驟雨は瀧と 襲ふとき、椰子の木かげの 窓ごとに、
東京の声 ひびきをり。

三 夕日おちたり たちまちに、満天の星 きらめきて、
夕餉の後の ひときを、椰子の木かげに 子供らは、
日本のうた うたふなり。

戦後から現代まで

戦後から 現代まで

中学生が教科書などで知る
「世界の主な出来事」「日本の主な出来事」

太平洋戦争後の世界は…

太平洋戦争の終結は、世界の歴史に大きな変革をもたらした。戦後の世界は、冷戦時代へと移行し、国際関係は大きく変化した。この展示では、戦後の世界の変遷について詳しく解説している。

国際連合

1945年に設立された国際連合は、世界の平和と国際法の維持を目的として設立された。この展示では、国際連合の役割と活動について詳しく解説している。

朝鮮戦争

1950年から1953年に続いた朝鮮戦争は、冷戦時代の代表的な戦争の一つである。この展示では、戦争の経緯と結果について詳しく解説している。

キューバ危機

1962年に発生したキューバ危機は、冷戦時代の最大の危機の一つである。この展示では、危機の経緯と解決について詳しく解説している。

ベトナム戦争

1955年から1975年に続いたベトナム戦争は、冷戦時代の代表的な戦争の一つである。この展示では、戦争の経緯と結果について詳しく解説している。

世界中で継続する戦争・紛争に関する展示

日本では「戦後〇〇年」と言われることがありますが、世界では現在まで絶え間なく戦争・紛争が続いています。この展示の上部にある年表のできごとは、教科書などに掲載されているものですが、世界中で続く多くの戦争・紛争が、この年表には掲載されていません。下には年表から零れ落ちていたくさんの紛争の一部を表示しています。世界は今、平和だと言えるでしょうか？

※この展示は、スウェーデンのウプサラ大学が公開している“Conflict Date Program”を参考に作成しています。



東西ドイツの統一

冷戦の終結に伴い、東西ドイツの統一が実現した。1990年10月3日、ドイツは統一された。この統一は、冷戦の終結を象徴する重要な出来事である。統一後、ドイツは経済的・政治的に急速な発展を遂げた。また、統一は、冷戦の終結を象徴する重要な出来事である。統一後、ドイツは経済的・政治的に急速な発展を遂げた。



湾岸戦争

1990年8月、イラクがクウェートに侵襲した。これに際し、アメリカを首脳とする多国連軍がイラクに侵襲した。1991年1月、多国連軍はイラクに侵襲した。1991年1月、多国連軍はイラクに侵襲した。



イラク戦争 (第2次湾岸戦争)

2003年3月20日、アメリカとイギリスを中心とする連合国軍がイラクに侵襲した。この侵襲は、イラクに侵襲した。この侵襲は、イラクに侵襲した。



エチオピア内戦

エチオピア内戦は、1974年から1991年まで続いた。この内戦は、エチオピアに侵襲した。この内戦は、エチオピアに侵襲した。

アフガニスタン侵襲

1979年、ソ連がアフガニスタンに侵襲した。この侵襲は、アフガニスタンに侵襲した。この侵襲は、アフガニスタンに侵襲した。

ウクライナ紛争

2014年、ロシアがウクライナに侵襲した。この侵襲は、ウクライナに侵襲した。この侵襲は、ウクライナに侵襲した。

イエメン内戦

2011年、イエメンに侵襲した。この侵襲は、イエメンに侵襲した。この侵襲は、イエメンに侵襲した。

リビア内戦

2011年、リビアに侵襲した。この侵襲は、リビアに侵襲した。この侵襲は、リビアに侵襲した。

第1次コンゴ戦争

1996年、コンゴに侵襲した。この侵襲は、コンゴに侵襲した。この侵襲は、コンゴに侵襲した。

ソマリア内戦

1991年、ソマリアに侵襲した。この侵襲は、ソマリアに侵襲した。この侵襲は、ソマリアに侵襲した。

アンゴラ内戦

1975年、アンゴラに侵襲した。この侵襲は、アンゴラに侵襲した。この侵襲は、アンゴラに侵襲した。

北アイルランド紛争

1969年、北アイルランドに侵襲した。この侵襲は、北アイルランドに侵襲した。この侵襲は、北アイルランドに侵襲した。

エルサルバドル内戦

1979年、エルサルバドルに侵襲した。この侵襲は、エルサルバドルに侵襲した。この侵襲は、エルサルバドルに侵襲した。

パナマ侵襲

1989年、パナマに侵襲した。この侵襲は、パナマに侵襲した。この侵襲は、パナマに侵襲した。

内バア分断独立運動

1991年、内バアに侵襲した。この侵襲は、内バアに侵襲した。この侵襲は、内バアに侵襲した。

バスク紛争

1979年、バスクに侵襲した。この侵襲は、バスクに侵襲した。この侵襲は、バスクに侵襲した。

アフガニスタン侵襲

1979年、アフガニスタンに侵襲した。この侵襲は、アフガニスタンに侵襲した。この侵襲は、アフガニスタンに侵襲した。

モザンビーク内戦

1977年、モザンビークに侵襲した。この侵襲は、モザンビークに侵襲した。この侵襲は、モザンビークに侵襲した。

アフガニスタン侵襲

1979年、アフガニスタンに侵襲した。この侵襲は、アフガニスタンに侵襲した。この侵襲は、アフガニスタンに侵襲した。

コートジボワール内戦

2002年、コートジボワールに侵襲した。この侵襲は、コートジボワールに侵襲した。この侵襲は、コートジボワールに侵襲した。

これらの紛争等については、スウェーデンのウプサラ大学掲載の1946年～2020年 Conflict Date Program 約2,500事例の一部を参考にしています。
また、上記の年表は、令和3年度に使用している中学校の教科書を参考にしています。

2500事例については、その年の紛争の数を合計したものです。
例えば、ベトナム戦争は1965年～1975年です。11事例をカウントしています。

「平和」とは何かを考えるために

平和館では、未来の平和を多くの人々とつくっていくために、まず「平和」とは何かを考えることから始めようとしています。この展示では、「平和」について考えるため、平和とは言えない状況（環境汚染、貧困、差別やいじめなど）や、世界各地の平和を表す言葉の意味（平和【日本語】、Peace【英語】、Pax【ラテン語】、和平【中国語】…）の違い等を紹介しています。

平和と戦争

[illegible][illegible][illegible]

Капуццини (* 22 月 語)

平和 (11月20日)

Frieden (Friede)

Park (マサシエ道)

和平 中國語

4. $\mathbb{R}^n$ (欧氏空间)

540 100 (100%)

Pseudomyxalestus

(1994年12月25日)

10th March 1991 (2/2/2005)

DAME (デブカン語)

平和首長会議の目標

[illegible]

1. 輸入關稅由二、三釐減至一釐
2. 廢除中國沿海各重要港口的費稅
3. 平稅及免稅制度

與中國傳統習俗及儒家倫理觀
的相輔相成關係。而此一時期
的中國人學問題，僅限於國學
與西學的論爭範圍內，並未涉及

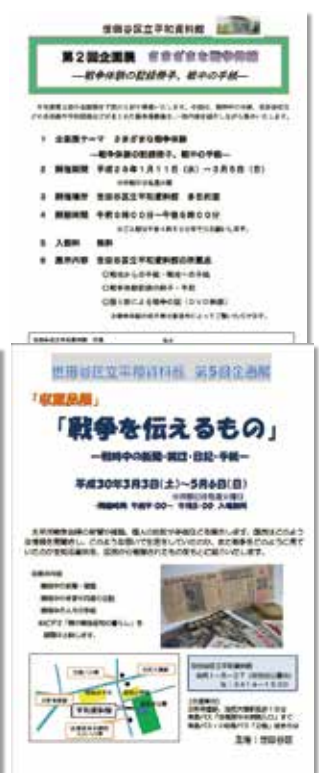
88.

1. *Myxococcus xanthus* is a Gram-negative, rod-shaped bacterium that is capable of multicellular behavior. It is a member of the *Proteobacteria* phylum, specifically the *Alphaproteobacteria* class. *M. xanthus* is known for its ability to form multicellular aggregates called fruiting bodies, which are capable of surviving in a dormant state for extended periods of time. This bacterium is also known for its role in the degradation of organic matter and its potential as a model organism for studying multicellularity.

[illegible]

特別展・企画展の10年

特別展・企画展は、平和を考えるきっかけとなる身近なテーマや、そのときの社会情勢を見つめるテーマで開催してきました。平成27(2015)年からの10年を振り返ってみましょう。



▶▶▶ 平成27年 (2015) 平成28年 (2016) 平成29年 (2017) 平成30年 (2018) 平成31・令和元年 (2019)

▲ SDGs 国連採択 ▲ パリ協定発効

▲ 世田谷区多様性を認め合い男女共同参画と多文化共生を推進する条例



[illegible]

女子学生生活支援センター × 女子学生生活センター

ジェンダーと平和

女子学生生活センター、専攻科生を招き行われるジェンダー講座と、女子学生生活センターの学生が中心となり行われるジェンダー講座の両方から、ジェンダーと平和について学びたいという方へ参加の機会を設けます。

5/26（金） 女子学生生活センター 3F 301号室

5/27（土） 専攻科生 女子学生生活センター 3F 301号室

5/28（日） 女子学生生活センター 3F 301号室

第10回 日本デザイン大賞

ヒロシマ・アピールズ ポスター展

「ヒロシマ・アピールズ」は、実際の爆撃記録、デザインの方針や制作過程を中心に、毎年1冊、日本を代表するデザイナーがポスターを制作し、国内外に発信する。本展では『第10回 広島国際文化祭』にヒロシマポスター展出品。日本グラフィックデザイナー協会（JGD）と、神戸市に協賛しながら「ヒロシマのめ」をテーマにしたポスター展は、今年2月9日に開幕する。

今回、広島県はポスター展を主催すると、日本グラフィックアイン協会にも協力した。歴代のポスターを展示すると、ポスターに描かれた人物のメッセージをぜひ読んでいただいたい。

ぜひお友達や家族の仲間を

2024. 8/4 ~ 8/23 木

HIROSHIMA APPEALS

**NO
NUKES
NO WAR
HIROSHIMA
APPEALS 2024**

（広島市美術館・広島県立美術館）

主催：広島県立美術館、広島市美術館、広島県立広島美術館（広島市美術館）

協賛：広島県立美術館、広島市美術館、広島県立広島美術館（広島市美術館）

協賛：広島県立美術館、広島市美術館、広島県立広島美術館（広島市美術館）

協賛：広島県立美術館、広島市美術館、広島県立広島美術館（広島市美術館）

協賛：広島県立美術館、広島市美術館、広島県立広島美術館（広島市美術館）

協賛：広島県立美術館、広島市美術館、広島県立広島美術館（広島市美術館）

協賛：広島県立美術館、広島市美術館、広島県立広島美術館（広島市美術館）

協賛：広島県立美術館、広島市美術館、広島県立広島美術館（広島市美術館）

平和をテーマにした本画
家いわさきちひろさんの
パネル展も開催します。

広島で戦後した子どもたち
の暮らし、戦争と子どもたち
のつながりを描いた絵本
『わらしこび』にまつた
ときに、(童)の心、自
身の体験した戦争と、自
身の戦争の子どもたちに
描いた絵本と絵画『戦火
のななめきともし』
(長崎書局)などから復
製画を展示します。世界
で戦争の絶えない今、展
示を通して、子どもたち
が安心して暮らせる平
静な未来について考え
てみたい。

会場：ちひろ美術館
（広島市南区美保町）

9/13(土)・9/29(土)

せがや未来の平和館
(安芸高田市立中央図書館)

9月13日(土) 10時～12時
9月29日(土) 10時～12時

入場料：無料
観覧料：500円(中学生以下は200円)
観覧券：500円(中学生以下は200円)
観覧券は、9月13日・29日の
展示の両方を見学する
ことができます。

TEL 084-931-1155 FAX 084-931-1152

9月13日(土) 10時～12時
9月29日(土) 10時～12時

入場料：無料
観覧料：500円(中学生以下は200円)
観覧券：500円(中学生以下は200円)
観覧券は、9月13日・29日の
展示の両方を見学する
ことができます。

TEL 084-931-1155 FAX 084-931-1152



令和4年 世田谷区立平和親野郎 企画展
**「わたがの未来の平和を
 SDGsで考えよう！」**


【期間】令和4年3月2日（土）～6月30日（土）
 【会場】世田谷区立平和親野郎 企画展会場（世田谷区立平和親野郎 企画展会場）
 【入場料】無料（観覧券は別途発行）
 【予約】不要（当日受付）
 【問い合わせ】世田谷区立平和親野郎 企画展係（TEL：03-3416-1330）



令和4年 3月2日（土）～6月30日（土）

開催期間 令和4年3月2日（土）～6月30日（土）
会場 世田谷区立平和親野郎 企画展会場
入場料 無料（観覧券は別途発行）
予約 不要（当日受付）
問い合わせ 世田谷区立平和親野郎 企画展係
TEL 03-3416-1330

主催 世田谷区立平和親野郎 企画展係
協賛 世田谷区立平和親野郎 企画展係
協力 世田谷区立平和親野郎 企画展係

令和4年度 世田谷区立平和資料館 企画展
「沖縄戦」

全日本平和教育財団より提供された、太平洋戦争中
の米軍による沖縄戦の戦況写真19枚。戦況の推移が
一目瞭然と見て取れる貴重な写真だ。

1945.6.27撮影 沖縄戦中、米軍が戦況を監視する様子

1945.6.29撮影 米軍が戦況を監視する様子

令和5年 2月1日(水)～2月27日(月)

観覧時間：午前10時～午後5時(入館受付は4時45分まで)
休館日：毎週水曜日 年末年始(12月29日～1月3日)
観覧：世田谷区立平和資料館 無料、無料開放
(世田谷区立平和資料館)

資料提供先：1-5-27(昭和会館)内
電話：03-3464-1520 FAX:03-3464-1522

注意事項：
● 観覧は無料ですが、観覧券が必要です(観覧券は無料) 券は18分
● 世田谷区立平和資料館 池袋分館 券は18分
● 入館券は、世田谷区立平和資料館に220円
● 観覧券は、小・中学生400円、小学生300円

世田谷区立平和資料館 池袋分館

国立防災教育推進センター
 防災教育推進部

関東大震災100年から考える

災害と平和

2023.9.1 (金) 9:30(正)

● 1923年9月1日の関東大震災は、日本近代史上最大の災害であり、日本社会に大きな影響を与えました。この大震災から100年を記念し、防災教育推進部では、大震災の歴史と教訓を伝えるとともに、現代社会における防災意識の向上を図ります。

● 本日は、防災教育推進部が主催する「大震災と平和を考える」を開催いたします。本日は、大震災の歴史と教訓を伝えるとともに、現代社会における防災意識の向上を図ります。

● 本日は、防災教育推進部が主催する「大震災と平和を考える」を開催いたします。本日は、大震災の歴史と教訓を伝えるとともに、現代社会における防災意識の向上を図ります。



大震災と平和を考える
防災教育推進部編

災害と平和について教えてください

災害のメカニズムを教えてください

早期警戒システムについて教えてください



大震災から100年を記念し、防災教育推進部では、大震災の歴史と教訓を伝えるとともに、現代社会における防災意識の向上を図ります。

● 大震災の歴史と教訓を伝えるとともに、現代社会における防災意識の向上を図ります。

● 大震災の歴史と教訓を伝えるとともに、現代社会における防災意識の向上を図ります。

● 大震災の歴史と教訓を伝えるとともに、現代社会における防災意識の向上を図ります。



令和2年
(2020)

令和3年
(2021)

令和4年
(2022)

令和5年
(2023)

令和6年
(2024)

令和7年
(2025)

▲新型コロナウイルス 感染拡大

▲ロシア軍による ウクライナ侵攻

▲イスラエル パレスチナ紛争

[illegible][illegible]

皆で探ろう

せたがや未来の平和館 企画展

せたがやの戦跡と戦争体験

～身近な地域の戦争を伝え、学びあう～

「戦争の時の地域はどうだったの？」見学に来た区内の小・中学生に質問されまして、しかし、資料は地域によってばらつきがあり、うまく答えられませんでした。体験者が年々少なくなっていく中で、これからの平和教育のために、身近な地域を活用しながら歴史を伝えていきたいと思っています。ぜひ皆さんに力を貸してもらい、資料のかけらをたどりながら、世田谷区内の戦跡と戦争体験を一緒に探しましょう！

2024年4月26日(金)～7月31日(水)

Map locations include: 消防訓練 (Fire Training), 防空壕掘り (Air Raid Shelter Digging), 空襲 (Air Raid), 学童疎開 (School Children Evacuation), 建物疎開 (Building Evacuation), 勤労動員 (Labor Mobilization), 軍事施設 (Military Facility), 周辺の暮らし (Life in the Surroundings).

【まち歩きツアー：語り部に会いに行こう】

対象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
 日時：2024年5月19日（日）13時～12時・小雨決行
 集合：三田地区会館（ルート：代沢一丁目～池沢～平和資料館）
 定員：12名（応募者多数の場合は抽選） 参加費：無料
【お申し込みはせたがやコールへ】
 期日：4月1日～4月30日
 ①イベント名 ②氏名 ③住所 ④当日の連絡先

せたがやコール
 TEL: 043-533-3033
 FAX: 043-533-3034

展示会場：世田谷区立平和資料館 多目的室（入館無料）
 世田谷区民会館 1-5-27 世田谷公園内
 集合日曜館蔵不滅文化人類学・三軒茶屋駅より徒歩13分
 バス停「日輪橋中央駅南入口」徒歩4分
 開館時間：9時～17時（入館は16時45分まで）
 休館日：毎週水曜日（大館日曜が休館の場合はこの日曜）
 お問い合わせ：世田谷区立平和資料館（TEL: 03-3414-1350）

戦時中の体験談・写真などの情報など大募集！

[illegible]

企画展
 世田谷区民が選んだ民営生活
 『粟村 一路を例に』

世田谷区民が選んだ民営生活。粟村 一路を例に。粟村 一路は、世田谷区民が選んだ民営生活の代表者として、世田谷区民の生活の中心に立っています。粟村 一路は、世田谷区民の生活の中心に立っています。粟村 一路は、世田谷区民の生活の中心に立っています。



開催期間：2023年3月3日（金）～5月12日（金）

- 入場料：大人（土）（前）200円（後）100円（小）100円
- 特別料：電通（電通）
- 特別料：電通（電通）



【お問い合わせ】 世田谷区民生活センター 庶務課 電話：03-3498-1111

【お問い合わせ】 世田谷区民生活センター 庶務課 電話：03-3498-1111

来館者アンケート

現在では、展示解説や語り部のお話会、ワークショップなど、様々な取り組みが対面でできるようになりましたが、かつてコロナ禍では、来館者と対面でコミュニケーションを取るのには難しいことでした。「会話」をしなくても「対話」ができる企画として、令和4年度から、来館者アンケートにすべて専門員が返信を書き掲示する「アンケートコーナー」を設けました。

コロナの収束も関係しますが、令和3年度では1桁だったアンケートが、令和4年度から一気に3桁になりました。そのいくつかを例として紹介します。



来館者アンケート	令和3(2021)年度	7件
	令和4(2022)年度	156件
	令和5(2023)年度	181件
	令和6(2024)年度	143件

(1) 戦争体験の話について

寄せてくれた感想でまず目立つのは、自分もしくは家族の戦争体験でした。自分が経験した時代の実物を見て懐かしく思ったり、苦労した記憶を思い出したりします。そして自分の親や祖父母から聞いた話や、聞けなかった悔しい気持ちを共有してくれます。日常会話に出てこない家族史を、「ここなら!」と思って書いてくれたかもしれません。



貴重な数多くの資料ありがとうございました。あらためて戦争のこわさを知りました。父が広島の実爆者です。父は兵隊で被爆しましたがなんとか生き延びました。そのつらさは理解できていませんでした。原爆資料館で見学しても人形など「これは作りもので本物は見られない」と言っていました。

人形の撤去を巡って様々な議論があり、確かに「実態が反映しきれない」という意見もあったと覚えています。おそらくいつまでも経験者でない私たちには本当のつらさを理解できないでしょうけど、限界を知りつつも一所懸命知り、伝えていきたいと思います。



アンケートを通じて私たちは、体験者の話と出会い、戦争の歴史と展示について改めて考えさせられます。

(2) 考えはじめたことについて

「平和ってそもそもなんだろう」という問いかけや、平和学の概念が展示に加わってから、平和を様々な視点から考えるようなコメントが増えました。



何度か来館し、その度、平和について考えさせられました。そしていまは「私は平和を追求する。暴力を手段に使わない。」とか。「暴力は問題解決の手段ではない」と暴力を主語にするよりも「私は」と考え始めたらどうかな？と思っています。
また考えに来ます。

ご感想ありがとうございます。平和や戦争、暴力を対象物として捉えるのではなく自分事として考え、「私は」と自分を主語にして考えていくことから始めるというのはとても大切なことと思います。素敵なお提案ありがとうございます。またぜひご意見ご感想をお寄せください。



「私」に主語を変換すると主体性も変わってきます。いただいたコメントのように、来館者の考えで専門員が気づかされることもたくさんありました。



(3) 平和館の可能性への気づきについて

アンケートはまた、館を運営する自分たちの工夫がどう受け止められたか、施設そのものが何を果たせるかを知る機会になっています。例としてこのような意見がありました。



学童疎開の展示を中心に見ていたが、当時の様子について見学していたおばあちゃんに話していただくことができ、より深く理解することができた。おばあちゃんの「本当に戦争はよくない」という言葉が強く印象に残った。

ご来館ありがとうございます。来館の方同士が展示を見て交流されたと伺いとても嬉しいです。過去の戦争を体験された方のお話を伺うことができたのはとても貴重な体験ですね。またぜひご来館お待ちしております。今後ともどうぞよろしくお願いします。



教科書で見たことのない資料がたくさんあり、非常に勉強になりました。トイレを借りるためだけに立ち寄ったんですが、トイレに貼られていた「トイレのスパイ」の話が面白くて展示を見なくなりました。このレベルの展示を無料で見られるのは、とてもありがたかったし、おもしろかったです！もっと色々な人に見てもらいたいと思いました。

ご来館いただきありがとうございます。展示物のほとんどが区民の皆様の寄贈品です。「トイレのスパイ」に関心をもっていただき大変うれしく思います。これからも、興味関心をもって見学していただけるよう努めてまいります。



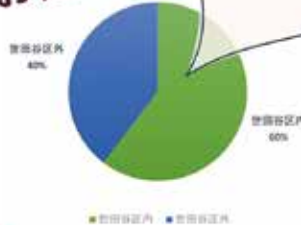
※「トイレのスパイ」については50ページをご覧ください。

トイレに貼った戦時中のエピソードに興味を持っていたいたり、平和館の空間自体が体験者と非体験者の交流の場になったというコメントを寄せていただきました。来館の皆さんと、平和を自分ごととして未来に繋げて考えていけるような場にしていきたいと思っている私たちにとって、とても参考になりました。

上記以外にも、展示に共感した方や、こういう内容を増やしてほしいという方など、たくさんの方からご意見をいただき、参考にさせていただきました。令和6年度からは従来の意見欄のほかに、来館者が興味を持ったテーマや参加してみたいイベントについても伺うようになりました。これからは身近な平和施設として、来館者の声に耳を傾けながら、平和を考える場づくりを頑張っていきたいと思っています。

2024年8月～11月 来館者の感想 たくさんいただきありがとうございます！

1. お住まい

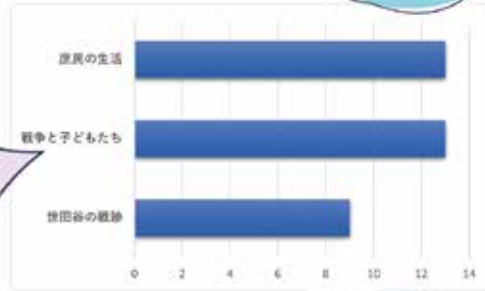


前回と比べると世田谷区内に住む方のアンケートが増えました。

戦争下の生活の様子とともに子どもたちのことも気になった方が多かったです。

3. 印象に残ったテーマ

TOP3



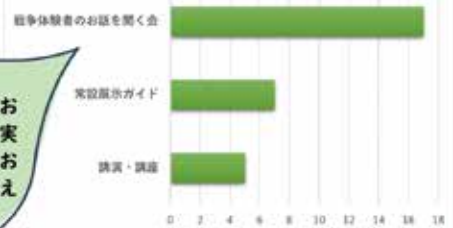
2. 年代

夏休みがあったので、小・中学生の方もたくさん書いてくれました！



4. 参加してみたいイベント

TOP3



戦争体験者の方のお話もあったので、実際に経験された方のお話を聞きたい方が増えてきています。

戦争体験の共有

10名近くが展示見学後、家族の戦争体験を思い出し、父親や祖父の出征、シベリア抑留、被爆2世、3世としての思いなど、貴重な体験を共有してくれました。歴史の事実を学ぶだけでは足りず、完全にはできなくても、戦争の愚かさやそれに対する思いを体験者やその家族から詳細に聞いて、共感することが、未来の平和を考えるために大切なことだと考えています。体験を残して伝えていく役割や、世代間の対話の役割を果たしていきたいと思っています。

貴重な数多くの資料ありがとうございました。あらためて戦争のこわさを知りました。父が広島被爆者です。父は兵隊で被爆しましたがなんと生き延びました。そのつらさは理解できていませんでした。原爆資料館で見学しても人形など「これは作りもので本物は見られない」と言っていました。

人形の展示を見て様々な議論があり、確かに「真実が反映しきれない」と反対しない意見もあったと驚いています。おそらくいつまでも経験者でない私たちには本当のつらさを理解できないでしょうけど、限界を知りつつも一歩踏み出し、伝えていきたいと思っています。

非常にコンパクトにまとめられて、とても見やすいと思いました。私の父親は、大学進学のため、出陣はなく同期生を見送る立場でした。都内在住で、空襲時火災を消火する活動に従事していたそうです。もっと当時のものが残っていればよかったのですが、戦後が多く残っていませんでした。

同期生を見送る立場でも色々な思いがあったんだろうし、消火活動などでも戦時中の生活を知るためにとても貴重な体験だと思います。そういう意味では資料が残っていないことは少し残念ですが、現存資料を頑張って保存・展示していきたいと思っています！

私は広島被爆3世ですが、このような記念館が戦争の記憶の風化を防いで下さっていること、とても強く思っています。広島でも2、30年前は夏休みの研究に小学生達が原爆資料館を訪れていました。(今はどうか分かりませんが)世田谷区の子供達にもぜひ触れてほしいです。

学校の教育プログラムや宿題として取り組むといいですね！原爆をはじめ、様々な戦争体験をもっと世田谷区の子どもたちに触れてほしい。ぜひ資料館に来ていただければと思っています。

連戦連勝に時間があったため立ち寄りしました。父は自分の父の話を知らず。私の祖父はシベリア(シベリア軍)でマラリアにやけどしたと聞いています。昔は、統一戦だったそうです。この話を聞いたのは父が亡くなった後、父の母(おば)からです。父は自分の父のことを知らないため、父(祖父)のことを私や姉には言えなかったのでしょう。それが戦争なのだと思いここにきて実感しています。世帯で今も続く辛いことを止められるように声を上げていきたいと思います。見る、知る、考えることを忘れてはいけないと思いました。

食がなくて統一戦で家族の死を受け止めるを得なかったことはすごく悲しくて、「それが戦争なんだ」とおっしゃる通り、いわゆる「平和な時の死」と違うものだ。改めて気づかされました。資料館も一緒に考える役割を果たしていきたいと思っています。

祖父のシベリア抑留に行っていたときの話(食べ物やペルトの軍を食べていた)を思い出しました。実際に戦時中のことを詳しく感じることができると感じています。

シベリア抑留の話は常設展示ガイドの中でよく触れていますが、思ったより知らない人が多かった気がします。いくら戦争や紛争で負けた、投降した側といっても、人の生存権を侵害することが繰り返されていることを、今改めて真剣に考える必要があると思いました。

せたがや未来の平和館 成長のあゆみ

平成7(1995)年 平和資料室 開設

区は昭和60(1985)年に平和都市宣言を行い、恒久平和と平和の実現にむけて、その誓いを内外に明らかにしました。

この趣旨に基づき平成7(1995)年に平和資料室を開設し、以来後世に伝えていくための様々な活動を行ってきました。



平成27(2015)年 平和資料館 開館

平和資料室は約20年間、区立玉川小学校で運営していました。平和都市宣言30周年の節目に、平和資料館は、平和のモニュメントがある区立世田谷公園内に開設しました。



令和3(2021)年 常設展リニューアル

「せたがや未来の平和館」として、かつて日本が経験した戦争をはじめ、過去の出来事を知ることが大事にしつつ、そこから未来に向けて一歩踏み出すことを目指し、常設展の展示を大幅に見直しました。平和館としても大きなチャレンジでしたが、アンケートなど多くの方からご好評をいただいています。皆様からのご意見・ご感想を掲示し、以来多くの方と一緒に平和について考える場となってきました。



令和7(2025)年 10周年常設展リニューアル

開館10周年に向けて、せたがや未来の平和館はすべての人に伝わる展示を目指していきます。戦時中の実物やエピソードを通じてかつて日本が経験した戦争を知り、それぞれ感じたことから平和について考えてみてもらうというスタンスに変わりはありません。展示のフォントやデザインなど見せ方を読みやすいように揃えつつ、問いかけや参加型の要素も全展示の流れを通して作成する予定です。

一人ひとりが日々の生活を少しでも想起させられ、共感をもち、そして未来の平和をイメージすることにつながることを目指しています。それを目指した新しい常設展示の完成をぜひお楽しみください。



昭和女子大学の学生たちがインターン生として展示替えについて一緒に考えてくれました。

第二部 ともにつくる平和な未来





とって 何ですか？



来の平和館

平和資料館は、過去、現在を理解し、未来を展望するため、さまざまな展示や活動を行っています。
一緒に平和を見つめてみませんか。

体験者から語り部へ

「戦争体験者」という言葉の意味

「戦争体験者」と聞いて、皆さんはどのような人を思い浮かべるでしょうか。原爆に遭った人、空襲で家族や家を失った人、戦地で負傷した兵士や、命からがら逃げた人など、いわゆる「悲惨な体験をした人」をイメージするかもしれません。

しかし、戦争は特定の人だけでなく、社会全体を巻き込みました。特に、国民全員が関わったとされる太平洋戦争では、一般の人々も暮らしのあらゆる場面で戦争の影響を受けていました。そうした広い意味では、戦時下を生きたすべての人が「戦争体験者」と言えるのではないのでしょうか。

そのような視点から見ると、戦争を考える手がかりは、より多くの人の記憶の中にあることに気づかされます。これまでも、世田谷区内にお住まいの方々から、戦争の悲惨さを伝える貴重な資料や証言をご提供いただけてきました。しかし、戦争の悲劇だけでなく、例えば戦時中に世田谷の学校に通っていた人や、日々の暮らしの中で戦争の影響を感じながら生活していた人の話からも、多くを学ぶことができます。

私たちがよく知る地域での生活の様子だからこそ、当時のことがより身近に感じられ、「戦争が起きたら自分たちの生活はどうなるのだろう」という想像や、「なぜこんなことが起きたのだろう」という問いにつながるのです。だからこそ、平和館では、こうした多様な戦争体験を丁寧に記録し、次の世代に伝える取り組みを続けています。



「語り部」になるということ

自分の体験を発信し、「講話」「授業」にしていくことは、自然にできることではありません。体験した事実と主に伝えたいことは変わらないかもしれませんが、非体験者とのやり取りのなかで、次の世代に対して自分は何を一番伝えたいのか、記憶のどの部分が子どもたちの共感を呼びやすいのか、内容の比重や平和のメッセージを調整します。そのプロセスのなかで、体験者は「語り部」になっていきます。

丹後省三さん：地域で伝える、地域に伝わる代沢の空襲の語り

丹後さんは昔の下代田地域、今の代沢と池尻が接する地域で生まれ、5才の時に空襲を経験されました。昭和20（1945）年5月25日の夜、焼夷弾が雨のように落ちてくる中、姉と二人だけで逃げ惑いました。北沢川の中で夜を明かし、翌朝帰ったら家が全焼していました。引っ越し先の鵜沼海岸で今度は機銃掃射の攻撃から逃げるのに大変怖い思いをしたそうです。目に浮かぶような丹後さんの話に皆さんはいつも聞き入っています。



国土地理院の航空写真を加工して作成

丹後さんは、学校やオンライン授業、体験した地域を歩いて巡るイベントでも話してくださいました。毎回必ず皆さんから質問を募集し、それにできるだけ応えるように話をアレンジしてくださっています。空襲当日の話だけでなく、例えば食料難が気になる子たちには、「卵の殻まで粉々にして食べていた」と話してくださいました。

そして「亡くなった人を見ましたか」という質問に対して、「死体は見ていません。しかし、防空壕に入らないで逃げなさいと親に言われた、その理由はわかりますか」と子どもたちに問いかけました。「地上が燃えていると、防空壕に入ったら熱と酸欠で死んでしまうから」と答えが出るまで、学校の先生のように子どもたちを導いていました。



子どもたちに「これから立派な大人になる皆さんにぜひ、自由と平和を守り抜いてほしい」と話してくれた丹後さんは、語り部の活動を通して、非体験者との対話の中で、自由と平和を守る実践をされています。



増田陽子さん：戦中・戦後の教育の変化を通して何が大切かを語る

終戦時13才だった増田さんは下馬地域出身で、学童集団疎開から帰京し、高等女学校一年生に入学して終戦を迎えました。

当時の学校でのエピソードで「少国民※として国を支えるため勉強しているんです」と手を挙げて発言したことについて、増田さんは「恥ずかしいけど、私はバリバリの軍国少女でした」と振り返りました。戦後の女学校の教育では、オペラをしていたり、音楽の授業を楽しんでいたそうです。増田さんの話から、戦時中と戦後の教育の変化がうかがえます。

長年オペラが好きな増田さんはドイツ語を勉強しています。ボランティアのオーストリアの若者と流暢なドイツ語で戦争体験を話し、充実した交流をしました。「語り部になることで世界が広がった」と話してくださいました。

「自分で考え、しっかりと見ることが大切だ」と、増田さんは戦争体験のお話し会で話してくださいました。増田さんの話を聞いた生徒は、「自由を知らなければ自由がないことも気づけないのだということを知った。(中略)自由ではなくなった時に気づけるようにすることが必要だと感じた」と、コメントを書いてくれました。自由になってからの教育が生涯の趣味につながった増田さんの女学校生活への共感が、戦争が教育にどう影響するか、そして今自分たちが受けている教育を再び考えるきっかけになったのだと思います。



※少国民・・・小学生くらいの年少の国民という意味ですが、天皇陛下に仕える小さな国民という意味を含んでいました。(総務省 戦時中の生活を知るための用語集より)



語り部DVD

平和館は、10年で24本の語り部DVDを制作しました。主に区内在住、もしくは区内で戦時中を過ごした方々の話を収録しています。以前は、語り部がお一人でお話いただく収録形式が主でした。

ここ数年は、聞き手の参加によって、語り部DVDの収録は大きく変わりました。歴史学や平和学を専攻する大学生や、中高生が実際に語り部との打合せを重ね、自分たちの問題意識・興味関心からインタビューします。

この10年間ですでに鬼籍に入った語り部もいます。新しい「体験者」が生まれなかったためにも、非体験者の私たちがきちんと戦争体験をお聞きし、未来につなげ、継承していきます。



世田谷区オフィシャルチャンネル(You Tube)令和7年7月現在6本の戦争体験のお話を掲載しています。



平和へのアクション

せたがや未来の平和館では、ワークショップなどを行い館外にも活動の場を広げています。

楽しさ発見！



スタンプラリー

年に一度、世田谷公園の「平和のモニュメント」を回り、職員からスタンプを押してもらって、館へ戻ると景品がもらえます。

クイズラリー

クイズラリーの問題は3種類あります。常設展示室を見学してクイズに答え、アンケートを記入すると景品があります。また、期間限定で、ウォークラリーも実施しています。



平和の花活動



フウセンカズラの種はかわいいハート模様。地域にわたって広がりを願って、平和の花活動を続けています。



小学生がフウセンカズラの種をもってきて、一緒に平和館の花壇に蒔いて育てたのがきっかけで始まり今年で6年目になります。以来、平和館で「平和の花活動」と名付け、種や苗を来館者や地域の人に配る活動や、種まきのイベントを行っています。

平和のランタン作りワークショップ

世田谷公園にある「平和の灯」にちなんで、和紙に押し花や絵具で彩るやさしい光のランタンを作りました。高校生やオーストリアからのボランティアの方が手伝ってくれました。



青空まつりでフウセンカズラのリースづくり



世田谷公園内のプレーパーク主催の「青空まつり」では、「フウセンカズラのリースづくり」をしています。平和の花活動で育てたフウセンカズラのツルをリースにし、公園の落ち葉や木の実を飾って、たくさんの参加者が秋の一日を楽しみます。



平和へのアクション 平和を身近に！

区立小学校での平和授業

戦争以外の非平和や様々な暴力について考える広い意味での「平和」授業を行っています。また、語り部と一緒に区立小学校の子どもたちに向けて、区内の戦争体験を伝え、身近な地域・生活から平和学習を深めています。



中学校巡回展

パネルと当時の実物を巡回展示することで、戦争の悲惨さや未来への平和の在り方について関心を持ち、恒久平和を築く一助となるよう開催しています。3年間で全ての区立中学校を巡回しています。



地域巡回展

毎年区内の各地域数か所でパネル展を開催しています。館に訪れたことのない方に知ってもらう機会として、また、平和を考える一つのきっかけとなるよう、展示を工夫しています。

語り部のお話会とギャラリートーク

企画展「皆で探ろう！せたがやの戦跡と戦争体験」では、区内の戦跡や戦争の証言などを調査し展示しました。

ギャラリートークに合わせて、区内で体験された方のお話を開催しました。



「国際メッセ」

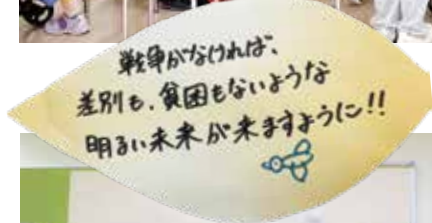
「せたがや国際メッセ」では、館の活動を区内の色々な国の人々や海外に関心のある区民に発信しています。また、区民と世界の人々をつなぐ付箋アンケートを実施しました。



来館者のメッセージ



来館者の声を集めた「平和の木」や「平和の想いをつなぐガーランド」。子どもから大人まで誰でも参加できます。ぜひみなさんも書きにきてください。



平和へのアクション 手をつなごう！



区立下馬図書館との連携

絵本の読み聞かせや、企画展示などを毎年行っています。図書館の方々の視点が加わり、より多様な発信ができています。



公園イベントとの連携

公園内の地域のイベントに参加し、地域の団体や来場者の方々と、普段館内ではできない交流を深めています。



青少年交流センターとの連携

区内の青少年交流センターでボードゲームで遊ぶ企画や、映画上映会をしました。子どもたちの関心と「平和」との接点を手探りしながら進めています。





大学・大学生との連携

区内の大学を中心に大学生たちに協力いただいています。語り部DVD作成の際の聞き手、イベントの運営スタッフ、資料の調査など、さまざまな場で活躍しています。



国際的な連携

外務省が推進する対日理解促進交流プログラム「JENESYS2024」の一環として来館した、ニュージーランドならびに太平洋島嶼国大学生の集合写真



海外からのボランティアの受入れや、海外団体の対応、平和を考えるワークショップなどを英語で行って、引き続き連携をしています。



バックヤードで宝探し まだまだある！ 展示していない収蔵品

これまで多様な展示品を紹介しましたが、平和館には一度も展示していない収蔵品がまだまだあります。ここではその一部を少しだけ紹介します。今後、展示室で出会うこともあるかもしれません。

昭和女子大学の松田忍教授と学生のご協力により、バックヤードからいくつかの収蔵品を選びました。見つけた学生が、どこに感じ入ったかのコメントと併せて掲載します。ご協力いただいた学生の皆さん、ありがとうございました。

軍隊手牒一式

いつどこの作戦に参加したのかが、記されていました。履歴の欄に載っているのも自分で書いているのだと考えていました。しかし、本人が病死したことも履歴の欄と同じ字体で書かれており、隊員について記録係がいたのだと驚きました。

年代により手牒の色味が異なっていたり、一度解散した後に再召集があったことなどを実感しました。

増本 葵（昭和女子大学2年）



飛行機識別参考

三方向から見た飛行機のイラストカードと『偵察員須知』の後半に描かれた飛行機の写真に興味をひかれました。

ここまで敵の情報がわかっていたことにも驚きましたが、全員が統一した情報を持つために、このような工夫をしたことも驚きました。

経験の違いがある中で、全員が認識できる通信をするためにも単語カードのようにして暗記をすすめていたのだと感じました。

村上由々（昭和女子大学2年）



「野戦病院なび三部隊」アルバム

野戦病院を置いていた中国大陆当時の様子が分かる写真が多く収められています。写真一枚一枚にキャプションのように説明がありました。私自身野戦病院の記録をほとんど見たことがなかったため、写真が多く残されていることに驚きました。

アルバムの中に、慰霊祭の写真がありましたが、野戦病院で慰霊祭が行われていたこと自体知りませんでした。

※なび三部隊 な…名古屋師団

ビ…病院

三…第三師団

室田素良（明治学院大学4年）

講談社の絵本(昭和16年・17年発行)

当時の子どもたちが読んでいた本を実際に読んでみて、戦争の身近さや目指すべき子どもの姿を読み取ることができました。特に「吉田松陰」の伝記の絵本では勤勉さやぜいたくをしない生活をしていたと書かれていて、「この絵本を読んでいる子どもは吉田松陰のようになりなさい」というメッセージを感じました。

小嶋美咲（昭和女子大学3年）

『婦人之友』昭和17年8月

昭和17(1942)年の婦人雑誌のイメージというと、戦争一色というイメージでしたが、この雑誌を見る限り、そうではないことに驚きました。例えば、「この夏は南瓜をさかんに食べませう」というページや「夏の涼しい子供帽子の作り方」というページなど、今の雑誌とほとんど変わらないようなページも見られるのです。掲載されている南瓜料理には、南瓜の羊かんや南瓜バタ炒めなど写真とともに紹介されており、とてもおいしそうでした。食料がとぼしい時期に南瓜でどうお腹を満たすか、この時代の人々の努力と工夫が雑誌から伝わりました。

橋本成美（昭和女子大学3年）

※学生の敬称略、学年は令和7年4月時点のものです。

バックヤードで宝探し～舞台裏～



上：見つけたものをお互いに報告。興味深いものにはみんなが集まります。

下：当時の様子を写した貴重な写真を、みんなで覗き込みます。
「写真に写っている部隊はどこに駐屯していたんだろうね」
「メモされてないかな？」

前頁の企画を「宝探し」と称して行いましたが、その舞台裏を紹介します。

探す前に平和館の願いとして、歴史的に価値があるかどうか大事だけど、皆さんが興味深いと思った感覚をまず大切にしてくださいとお伝えしました。すると、兵士が戦地から家族に送った手紙や、実際に使っていた生活用品、兵士の生活をコミカルに描いた絵葉書、戦時中の雑誌などなど…、次々に掘り出されてくるお宝たち。有意義だったと皆さんから言っていただき、平和館としてもやって良かったとほっこり。



今回の宝探しは、単にまだ展示できていない収蔵品を見つけることだけが目的ではなく、何を興味深い・大切だと感じるかも、歴史を考えるときの観点も様々あるため、その違いを楽しむことを



目指していました。自分が「興味深いと思った感覚」を大切にしたいと伝えた理由もここにあります。

何が興味深いと感じたのか、参加した学生同士でも、お互いの視点に「なるほど～」となることが多かったです。

上：当時使われていた双眼鏡の実物に、みんな興味津々。
「これって今でも見えるのかな」

右：見つけた収蔵品のどこが興味深いと思ったのか、じっくり考えながらメモを作成。あまり長く書かなくても大丈夫と言われても、つついびっしり書いてしまっ…



企画展 世田谷区民が送った兵営生活
～栗林一路を例に～

世田谷区には、区民の方々に寄贈していただいた史料が保管されています。今回の企画展では、栗林一路（くりばやし いちろう）さんの日記を、昭和女子大学の学生たちが紹介します。

一九二四年に生まれた栗林さんは青春時代を青山学院大学で過ごし、山岳部の活動に情熱を注ぎました。戦時には学徒動員され、兵隊に入りました。彼が几帳面に書いた日記には、人生を通して愛した山のこと、戦時のめまぐるしい雰囲気、その他様々な出来事が、ユーモラスなイラストと共に綴られています。

栗林さんにとって兵隊になることは、死を意味することでした。栗林さんの日記を通して、戦時中の日常、日常の中の戦時について考える機会にしませんか？

▲「教練手帳」に記された、軍靴の靴紐の結び方。

▼日記には文字だけでなく、山や建物、風景画、人々を描いたイラストのイラストも描かれています。

▲兵隊における口カリーの使い方。

開催期間：2023年3月3日（金）～4月30日（日）

◆入館時間：9:00～17:00（入館は16:45まで）
◆入場：無料
◆休館日：毎週火曜日（火曜日が祝日の場合はその翌日）

【企画】昭和女子大学
戦後史料を後世に伝えるプロジェクト
【主催・会場】世田谷区立平和資料館多目的室（せたがや未来の平和館）

世田谷区立平和資料館 〒154-0001 世田谷区池尻1-5-27 世田谷公園内 Tel03-3414-1530

【学生の皆さんの活躍に感謝】

松田忍教授と学生の皆さんには、以前実施した企画展【世田谷区民が送った兵営生活～栗林一路を例に～】や、常設展のリニューアル等にもご協力いただいています。

今後もせたがや未来の平和館をはじめ、各所での活躍を期待しています。

思い入れのある企画とその舞台裏

●まち歩きツアー：語り部に会いに行こう

どのような企画だったか？

平和館の語り部と一緒に、戦時中世田谷区内（代沢地域）で空襲を体験した場所を歩きながら、当時の話を聞くまち歩きツアー。後半は歩きながら専門員が途中の戦跡について案内します。

いつ、どのようなルートで回ったか？

開催日時：令和6（2024）年5月19日（日）10時～12時

10：00 【三宿地区会館】で集合

10：10 【下代田児童遊園】で丹後さんに会い、空襲の夜に避難した話を聞く

↓ 【富士中学校・駒場学園高校】元陸軍獣医学校の敷地を一周回り、途中で当時の軍人と軍馬の様子や爆撃の様子、近所の空襲被害の話を聞く

10：40 【駒場学園高校前：陸軍獣医学校跡碑】近所の戦後の様子を聞く、質問タイム

11：05 【騎兵第一連隊碑】元騎兵第一連隊について専門員が紹介する

↓ 【246 沿 い】246沿いの戦時中の商店街と建物疎開のエピソードを専門員が紹介する

↓ 【池尻稲荷神社】神社隣の元陸軍排水施設を歩いていく

↓ 【宅配便集配所】元陸軍の馬糧倉庫を見る

↓ 【世田谷公園】駒沢練兵場の様子と近隣住民の証言を専門員が紹介する

12：00 【せたがや未来の平和館】に戻る

丹後さんの体験は、
P40にあります～

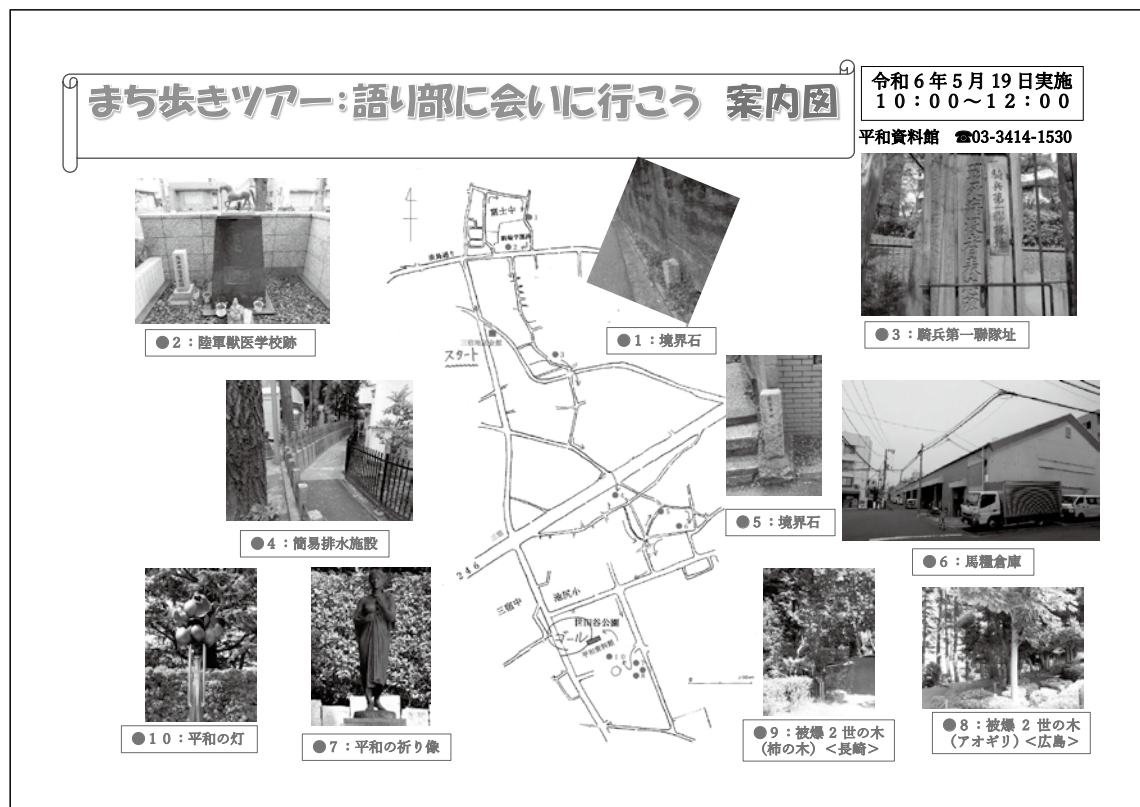


企画のコンセプト

陸軍の施設の多くあった世田谷区池尻・三宿地域では、今まで学芸員や郷土史家によるまち歩きツアーが実施されてきました。しかし、戦時中の体験に共感し身近なものとして考えるためには、当時の人が体験したことを知るのも必要ではと思いました。

そこで沖縄で行われてきた平和学習からヒントをもらおうと思いました。沖縄では、市民と自治体が記録してきた戦争の証言を、様々な形で平和学習にする試みがされてきました。体験者の講話だけでなく、例えば、一つの家族が本島南部に避難した時のルートを、戦跡を見学しながらバスでたどっていくプログラムもあります。地上戦の流れとともに、住民が避難する時の判断や気持ちを、現地の風景をリアルに想像しながら学ぶことができます。

語り部に「会いに行く」ことにより、今も地域に暮らす語り部と自分たちとのつながりを感じ、戦争があったことを身近なものとして想像できると思います。



参加者と学び合う

実際に参加者から下記のような感想を寄せていただきました。

- ①「実際に空襲を体験された方のお話を、空襲に遭われた場所で聞いたこと、様々な施設跡を実際に歩いたことで、当時の状況を鮮やかに想像することができました。」
- ②「母が体験した世田谷空襲、生前に断片的な話は聞いていましたが、本日、体験者様の話を直接聞いたことは大変貴重なイメージが湧いてきました。」

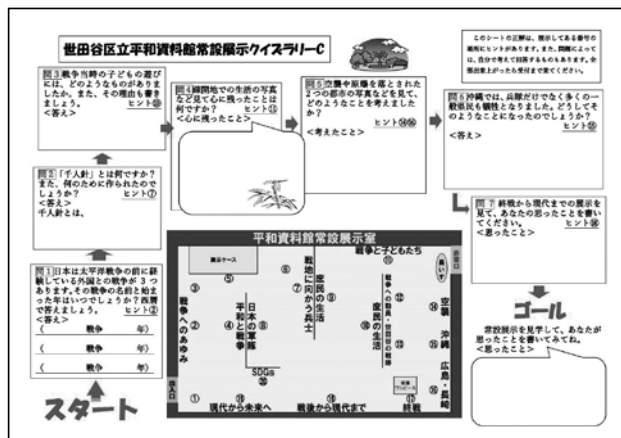
②の方は母親が戦時中世田谷で体験した空襲をもっと知りたいと言っていました。丹後さんの話は世田谷での体験だったため、他の地域の空襲体験より、母親の体験を想像しやすかったでしょう。またこの方が参加してくれたことによって、専門員も平和館で把握していない新しい情報を知ることができました。

また、小学生の参加者は、「B29は落ちましたか？」と質問してくれました。あとから「先生が破片を持っているよ」と教えてくれました。当時、B29が赤堤に墜落した事件がありました。平和館では当時の破片を所蔵しており、証言も把握していますが、ほかの破片がどこにあり、だれが持っているかについて考えたことはありませんでした。こうして、体験者が語ってくれるツアーは、参加者にとって自分が知っている地域の戦争のかけらと結びつけられる場でもありますし、専門員にとっても新しい発見があり、学び合いの場になっています。

●クイズラリー

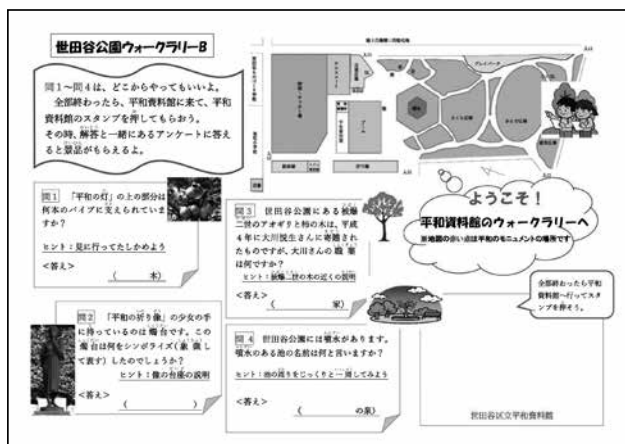
小学生や中学生にも展示内容について、少しでも興味をもってもらうために、小学校高学年から中学生を対象とした常設展示についてのクイズを実施することにしました。また、一度で終わるのではなく、難易度を変え、初級・中級・上級の3種類のクイズを作成することで、内容の理解と深まりも期待できると考えました。対象年齢にかかわらず、だれでも楽しめるものです。

常設展示室を見ながらクイズに回答してもらいます。答え合わせの後、アンケートに記入してもらったら、プレゼントが待っています。



●世田谷公園ウォークラリーと池尻・下馬地域ウォークラリー

夏休みを中心に開催し、公園のイベントでも行いました。

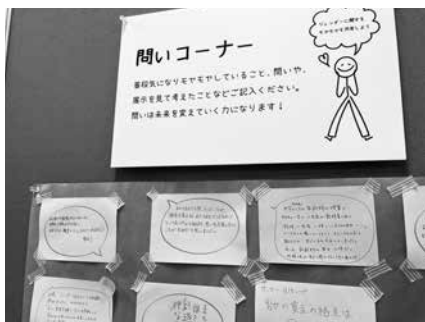


【クイズラリーとウォークラリーの参加者のアンケート】

- ・世田谷に軍事施設がたくさんあったことをはじめて知れた。(小学生)
- ・学校の授業だけでは、知れないことを学ぶことができてよかった。(中学生)
- ・公園内にも平和に関する願いや思いがあることを知りました。(一般)
- ・とても楽しかったです。公園内を探検してワクワクしました。(一般)

●企画展「ジェンダーと平和」

企画展に来てくれた人のエンパワメントになるようなものにしたい！というのが、世田谷区立男女共同参画センターらぶらすと連携して最初に考えたことでした。ジェンダーの視点から「平和」を考える展示を軸に、性の多様性を知るコーナー、ジェンダーバイアスに気づく問いかけや、来館者の思いが対話になるような「問いコーナー」などのほか、ワークショップも行いました。展示を見るだけでなく、参加型の企画展になるようさまざまなチャレンジを行いました。



ジェンダーに関する違和感やモヤモヤを書いて共有するコーナー



ゲームを通してジェンダーについて語り合いました



入口の特設コーナーでは、戦時下の女性たちの展示をしました

●トイレの掲示ポスター

平和館は公園内にあるため、トイレだけを利用する方もいらっしゃいます。平和館のことに興味をもっていただけるよう、トイレのドアに工夫した掲示をしています。その一つに、区内の疎開児童が体験したエピソード「トイレのスパイ」を掲示しています。

戦時中、都市部に住んでいる子どもたちは、空襲から避難するために学校ごとに疎開(そかい)していました。

疎開先の給食は最初ごはんでしたが、だんだん大豆の割合が多くなり、消化しにくいからおなかを壊してしまう子がたくさん出ました。

おなかを壊してしまうと黒板に名前を書かれ、ごはんの量が半分に減らされるので、皆隠そうとしました。

すると「トイレのスパイ」が現れ、「あいつおなかを壊してるけど、先生に言っていない！」と密告します。ほかの子のごはんが減らされる分を自分が食べられるからです。

——松沢国民学校から新潟の高柳村に疎開した村山珠江さんの体験から

**気を付けて！
スパイが今隣にいるかもしれない**

「トイレのスパイ」って何？

戦時中、都市部に住んでいる子どもたちは、空襲から避難するために学校ごとに疎開(そかい)していました。

疎開先の給食は最初ごはんでしたが、だんだん大豆の割合が多くなり、消化しにくいからおなかを壊してしまう子がたくさん出ました。

おなかを壊してしまうと黒板に名前を書かれ、ごはんの量が半分に減らされるので、皆隠そうとしました。

すると「トイレのスパイ」が現れ、「あいつおなかを壊してるけど、先生に言っていない！」と密告します。ほかの子のごはんが減らされる分を自分が食べられるからです。

——松沢国民学校から新潟の高柳村に疎開した村山珠江さんの体験から

疎開(そかい)とは？

—「空襲で都市部の危険度が増すと子どもたちは都市から離れるように指示されました」(総務省「戦時中の生活等を知るための用語集」から)

世田谷区では1944年の8月から、多くの子どもが、国民学校が引率する「集団疎開」に参加し、親から離れ、長野県や新潟県の田舎で、ひもじさ、寒さと寂しさを耐えながら一年以上生活していました。

～ほかの疎開体験エピソードは、常設展でご覧いただけます～

川崎市と世田谷区

平和館同士の相互連携について

川崎市と世田谷区は、双方の地域活性化及び持続的成長を目的として、平成26（2014）年12月に「川崎市と世田谷区との連携・協力に関する包括協定」を締結しました。その一環として、平成28年度から川崎市平和館との相互連携が始まりました。

当初はパネルの貸し借りから始まり、その後川崎市平和館の展示にも取り入れられている平和学の概念を意識したイベントや展示を実施してきました。

今後も区民、市民との交流を活発に行って、未来につながる交流をすすめていきます。

川崎市平和館の概要

平成4（1992）年、川崎市は、平和都市の創造と恒久平和の実現に寄与するために、戦中は軍需工場として、戦後は米軍印刷局だった、中原平和公園の一角に川崎市平和館を開館しました。川崎市平和館では、市民が包括的に非平和を考え非平和の平和への転換を模索する一助となるために、過去の戦争はもとより、現代の武力紛争、環境問題、差別、貧困、集団が暴力に動員されてゆく過程を描いたアニメ作品の上映などの展示や、さまざまな企画を実施しています。



川崎市平和館より

川崎市平和館から見た、せたがや未来の平和館の特色について

せたがや未来の平和館は、開館から10年の間に、変化を遂げてきました。開館当初は、玉川小学校にあった資料を移転させた資料館という色彩が濃く、戦時中のものとそれらの説明を、見に行く場所でした。その後徐々に、川崎市平和館の展示にも取り入れられている平和学の概念を意識した、楽しみつつ参加できるような施設に変わっていききました。子どもたちが寝そべりながら、平和に関する絵本を見られるようなスペースの設置や、図書コーナーのおすすめ図書ポップなど、世田谷公園という立地も活かして幅広い年齢に利用してもらうための努力もされており、川崎市平和館も、同じ平和のハコとして刺激をいただいています。

今後の連携についての展望

包括連携協定を結んでいる自治体が運営する平和のハコ同士、さまざまな企画につき、より一層の連携が実現していくことを願っています。特に近年、川崎市平和館が力を入れている、中学・高校と連携して行う企画展示やイベントへの、せたがや未来の平和館を通じた世田谷の中高生の参加は、自分たちごととしての平和を創る取り組みの広がりにもなるので、大いに期待しています。

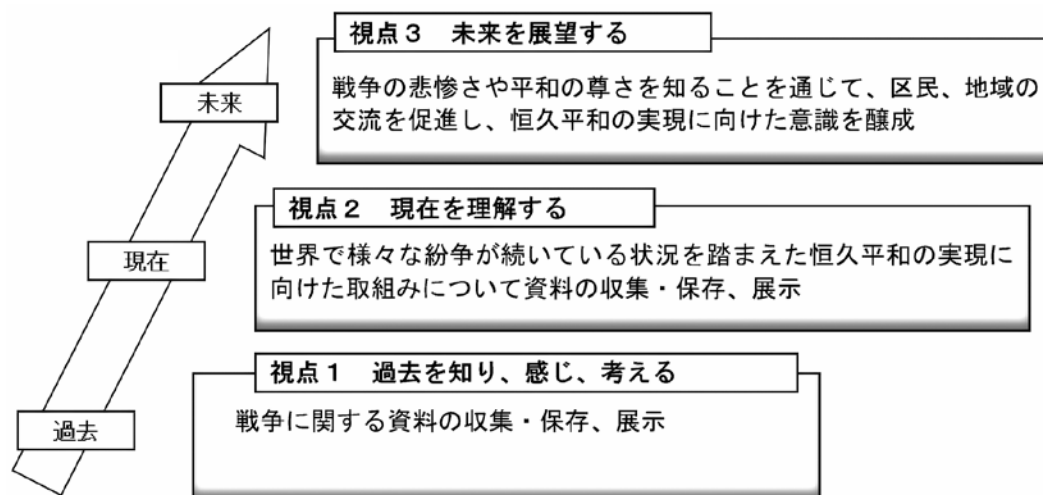


●川崎市平和館

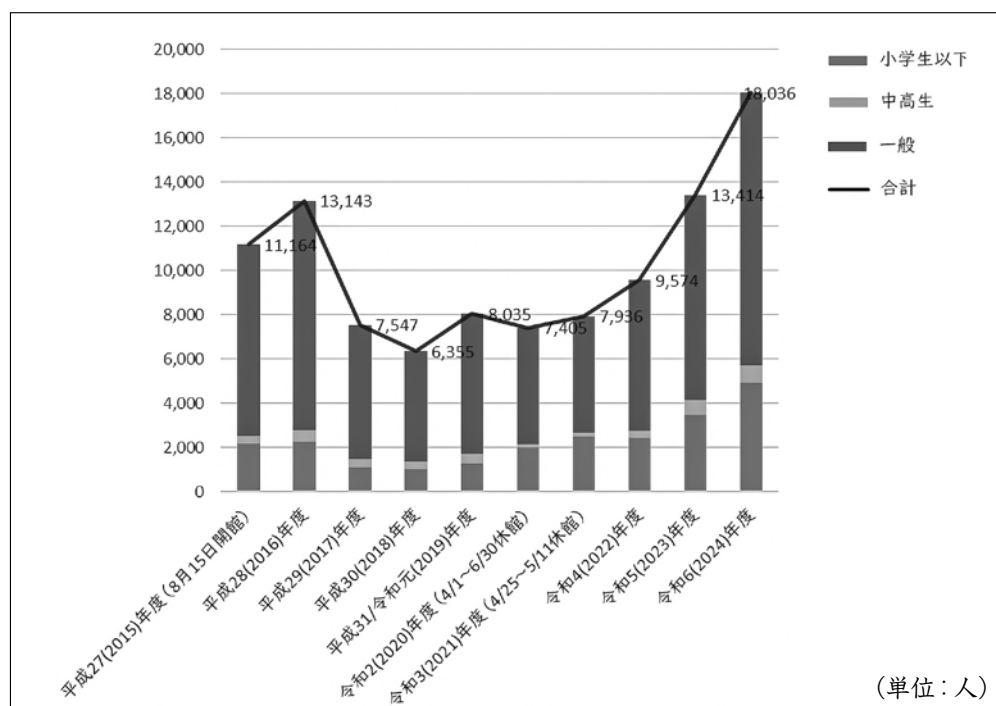
川崎市中原区木月住吉町33番1号 TEL 044-433-0171
武蔵小杉駅から徒歩10分

せたがや未来の平和館がめざすもの

● 平和館の運営目標



● 平和館の来館者数



年度	小学生以下	中高生	一般	合計
平成27(2015)年度 (8月15日開館)	2,193	340	8,631	11,164
平成28(2016)年度	2,282	488	10,373	13,143
平成29(2017)年度	1,094	377	6,076	7,547
平成30(2018)年度	1,015	355	4,985	6,355
平成31/令和元(2019)年度	1,253	466	6,316	8,035
令和2(2020)年度 (4/1～6/30休館)	2,005	141	5,259	7,405
令和3(2021)年度 (4/25～5/11休館)	2,495	149	5,292	7,936
令和4(2022)年度	2,455	278	6,841	9,574
令和5(2023)年度	3,474	654	9,286	13,414
令和6(2024)年度	4,900	801	12,335	18,036
延べ人数	23,166	4,049	75,394	102,609

● 平和な未来を せたがや から

せたがや未来の平和館は、平成27(2015)年の開館以来、延べ10万人を超える方々にお越しいただきました。平和館では、世田谷区の平和都市宣言の趣旨に基づき、戦争の悲惨さと平和の尊さを、子どもから大人まで多くの方に伝えることを目指して、運営目標の「過去を知り、感じ、考える」「現在を理解する」「未来を展望する」という三つの視点を大切に、さまざまな平和事業を展開しています。

この平和館の大きな役割の一つは、世田谷区にゆかりのある戦跡や歴史的資源を生かし、戦争の記憶にふれながら、平和について深く考えるきっかけを提供することです。たとえば、池尻の駒沢練兵場跡や代沢の陸軍獣医学校跡といった場所を訪れたり、体験者のお話を直接聞いたりすることで、過去の出来事を身近に感じ、平和の大切さを実感することができます。

また、平和について「知る」だけでなく、自分の考えを「伝える」ことも大切にしています。来館された皆さまの感想や意見を共有し合う場を設けることで、それぞれの平和への思いがつつなぎ、広がっていくことを願っています。

さらに、平和は戦争のない状態にとどまりません。災害や貧困、人権、環境問題など、私たちの暮らしにかかわるさまざまな課題もまた、平和のあり方と深く関わっています。こうした視点から、平和館では「災害と平和」「ジェンダーと平和」「SDGsと平和」といったテーマの企画展を開催し、幅広い角度から「平和とは何か？」を考える取り組みを行ってきました。

これからも区では、世田谷という地域の特性を活かしながら、過去の記憶を未来につなげ、平和について多様な視点から学び、考え合う場として、この平和館を育んでいきます。そして、区民の皆さまとともに、よりよい未来の平和を思い描いていきたいと考えています。



平和首長会議

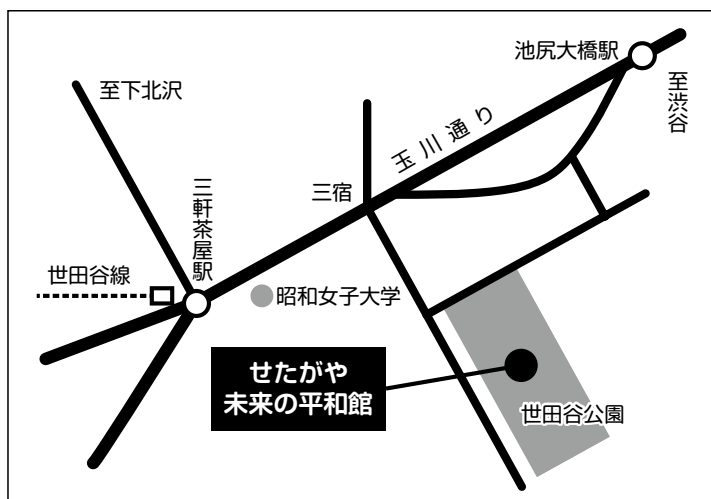
広島市・長崎市の提唱により、核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画に賛同する世界各国の都市で構成し、世界各地で様々な平和推進活動を展開しています。世田谷区は平成22(2010)年4月1日に加盟しました。裏表紙に、被爆80周年「平和首長会議国内加盟都市会議」ロゴマークを掲載しています。

詳細については「平和首長会議ホームページ」をご覧ください。



せたがや未来の平和館ご利用案内

- ☐ 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)
- ☐ 入館料 無料
- ☐ 休館日 毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌水曜日) 年末年始(12/29～1/3)
- ☐ 所在地 〒154-0001 東京都世田谷区池尻1-5-27 世田谷公園内(野球場となり)
- ☐ 問合せ ☎ 03-3414-1530 FAX 03-3414-1532
- ☐ 交通案内
 - ・東急世田谷線、田園都市線三軒茶屋駅徒歩18分
 - ・東急田園都市線池尻大橋駅徒歩18分
 - ・東急バス「自衛隊中央病院入口」バス停下車すぐ
 - <渋31> 渋谷駅～下馬一丁目(循環)
 - <渋32> 渋谷駅～野沢龍雲寺(循環)



せたがや未来の平和館HP



平和な未来を せたがや から せたがや未来の平和館 10周年記念誌

発 行 日 令和7年7月16日発行

編集・発行 世田谷区生活文化政策部

人権・男女共同参画課 平和資料館

住 所 〒154-0001

東京都世田谷区池尻1-5-27

電 話 03-3414-1530

世田谷区広報印刷物登録番号 No.2390



この冊子は環境に配慮し、
植物油インキを使用しています。

平和な未来を
せたがやから
せたがや未来の平和館10周年記念誌

